

議 会 広 報 広 聴 委 員 会 記 録

令和2年10月28日（水）
9時55分～11時55分
第4委員会室

- 【出席者】三浦委員長、西川副委員長、
村武委員、川上委員、小川委員、野藤委員、笹田委員、芦谷委員、
佐々木委員、澁谷委員
【事務局】近重係長、小寺書記
-

議題

1 はまだ議会だよりの今後の紙面について（資料なし）

- (1) 個人一般質問の文字量等

- (2) 第2回市民対談候補者

2 市民一日議会について……………資料1

- (1) ルール確認

- (2) 全員協議会提出資料

3 その他の広報広聴について……………資料2

- (1) SNSでの発信

- (2) 地域協議会との意見交換会

4 その他

【次回委員会開催予定】令和2年12月4日（金）個人一般質問終了後 第4委員会室

【議事の経過】

[09時55分 開議]

三浦委員長

議会広報広聴委員会を開会する。出席委員は10名で定足数に達している。

議題に入る前に、11月1日号の議会だよりが無事発行され、紙面改訂にあたり皆にご協力をいただいたことをまずお礼申し上げる。まだ改善が必要な点、発行してみてわかった点があると思うので、今日はそれも含め意見交換の時間を取っている。また引き続き広聴機能拡充に皆でより充実したものにしたい。よろしく願いする。

では議題に沿って進める。

1. はまだ議会だよりの今後の紙面について

(1) 個人一般質問の文字量等

三浦委員長

小寺書記から説明をお願いする。

小寺書記

(以下、口頭で説明)

三浦委員長

今回のリニューアルに当たっての感想なりご意見なり、お気づきの点についてご意見をいただきたい。

川上委員

昨夜、地域の常会があった。表紙のデザインについてよいことをやっているとは好評だった。内部も見やすくなったという声をいただいた。

三浦委員長

皆から一言ずついただければ。

野藤委員

うちの町内は昨日配布された。まだ反応は聞いていないが、私が見たとき、読みやすい感覚があった。アイコンがそれぞれ入っているのでわかりやすいのと、個人一般質問の文字数は減ったが視線誘導がよいと思う。市民対談第1回のレベルが高かったので次回から大変だが、皆からの反応はだんだんよくなるのではないかと思う。

村武委員

まだ市民の方には行きわたってないので、まだたくさんの感想をいただけてはいませんが、見られた方からは、表紙も大変素晴らしい、手に取って見てみようかなと思ったという感想があった。

それと、市民対談のところがやはり、細川さんや子どもの表情がすごくよいので、文字も読んでみようと思ったと聞いた。

あと、一般質問の文字数は少なくはなったが、それに関してどうこう言われることはなかったので、市民の方にはこれでしっかりと

議員の言いたいことは伝わっているのかなと感じた。

小川委員

特に市民からの反応は聞いていないが、ぱっと見ですごく仕上がりがきれいだと感じた。親しみやすい、質が高まった感じがする。個人一般質問のスペースは今後とも最低限これくらいは確保していただきたい。

澁谷委員

今回私は見やすくなっていると思う。一般質問の区分けがテーマによって質問者の数が違う。最後数行余っている人とそうでない人の違いが気になる。全体的にいつも議会だよりについて市民から聞くのは、今はコロナで公共事業も減っていて、浜田市民の経済状況は非常に厳しくなりつつあるのに、内容がおとなしい。議会がきちんとそういうことを踏まえて論戦しているのが伝わらないという声はずっと聞いているので、バランスというか。全体的には全国どこに出しても恥ずかしくない仕上がりになっていると思う。

佐々木委員

私も誰かから何か聞いたわけではなく、個人的には、市民対談が今回は大きな目玉というか、内容が充実できた大きな部分だと思う。より市民に近い議会だよりになったのではと思う。内容のレベルが高いので今後続けていくのはどうかと思うのだが、素朴にやっていけばよいと思う。

一般質問の枠が減った件はそれぞれご意見があるので、全部が全部酌み取るのは難しいが、今議会の中で何が問題になって、執行部とどういう議論をしていて、今後何が課題なのか、議会全体の取り組みとしてそういうところを市民が知りたがっているので、全体でできるのはこれしかないので、実情と今後の課題を広めていけたらと思う。

笹田委員

今回市民対談はよいのだが、4、5ページがカラーである。こういうところに写真を多く載せたほうがよいのでは。一般質問の写真がモノクロなので入ってこない。一般質問でいろいろあったと思うが、今回SDGsの枠で決めてやった。どこか得られた範囲内で、自分で括弧書きをつくってこういう質問をしたというのであれば、質問したことがカバーできるのではと思う。検討する価値はあると思う。

芦谷委員

ぱっと大幅に変わったので、見やすいという意見だと思う。よくよく見ると、もう少し字体や網かけ、背景、枠づけ、字の色をパターン化して整理したほうが。あまりにもごちゃごちゃしていて、長

い目を見てどうかという意見も頂戴した。

個人一般質問は写真があるのとないのがある。これも考えたほうがよい。前も言ったがSDGsについては、まだ市政の中でも議会の中でも共通点が進んでない。この意味を説いて一般質問を見る市民がどれだけいるのか少し疑問に思ったので、SDGsについてもしっかりとした啓発が必要だと感じた。

アンケートは件数が少なかったのだが、もっと件数が多くなるような取り組みが必要である。見た感じでは、えらく少ないという意見を頂戴した。

西川副委員長

まだ家族の意見しか聞いていないが、表紙はインパクトがある。前から少し変わって見やすいと。娘は読み飛ばして特に意見はなかった。

三浦委員長

各委員からの意見や修正点は、ご意見をまとめて次回の紙面構成に早速生かすために協議検討を進めたい。

(2) 第2回市民対談候補者

三浦委員長

次回の候補者の選定について協議したい。小寺書記から説明をお願いする。

小寺書記

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

1回候補を皆から出してもらっているので、これを基に進める感じでよいかと思っている。今回の浜田ふれあい食堂のイメージを想像していただきながら。ふれあい食堂の活動を紹介している感じなので、団体とかでも個人的には十分、対象者になり得ると思う。

笹田委員

先般、箱根駅伝予選会で三浦龍司君が日本人トップの記録を出したことが新聞に載った。箱根も多分走るのだから、応援してもらえるのではないかと。母親は浜田市民である。リアルタイムでよいのではないかと。

小寺書記

次に出るのが2月1日発行になる。時事的な部分も踏まえていただければと思う。

野藤委員

エッセンシャルワーカー、医療従事者が話題である。縁の下の力持ち、対応した看護師長、そういった方にスポットを当てるのもよいと思う。

澁谷委員

浜田市近隣の益田や江津に比べて地盤沈下している気がする。都市基盤の整備の遅れについて。外から来られた島根県立大学の学生

会の役員に、浜田に対する思いや感じたことを聞いて、市民にも現状の浜田市の問題点を聞いたほうがよいのではないかという気がしている。学生会とかある程度活動している方で。

川上委員

普段陽の当たらない方と考えると、先ほど野藤委員が言われたエッセンシャルワーカーの一步手前の救急で支える方々、そういう方々がよいかと思う。

小川委員

前回の議論の中で、今のコロナ禍で先が見通せない中、明るい話題となるとそういう点に向けたほうがよい。笹田委員の提案のように。スポーツや文化面の華が欲しい。エッセンシャルワーカーも確かに大切だが、文化面で明るさを感じてもらえるような部分にスポットを当てたほうがよい。

野藤委員

明るい話題、スポーツ、文化でいくと、Vリーグ、V1に浜田市から若い子が出ている。帰ってこられるかはわからないが、非常に注目されている。頑張っておられる若い方の話もよいと思う。

村武委員

皆の話を聞く中で、小川委員が言われるように明るい、未来に向けた話題もよいと感じた。このページの目的について再度確認したいのだが。

三浦委員長

市民との対談から、議会としてどういう視点でその方々の話を扱っていくか。広聴機能として、直接話をしながら、聞くスタンスがあることを皆にお伝えするのが大きな目的である。もちろんいろいろな活躍をしている方との対談に意味がないというわけではなく、澁谷委員が言ったような対談することでそこにある課題を一緒に考えていくといった視点が大事だと思う。例えば地域のスポーツクラブを見ながら、地域スポーツについて一緒に考える、話題提供が企画のだいご味かと思う。

西川副委員長

紙面に市民が登場することに意味がある。特別な人でなくて。

村武委員

私は議会だよりというところがあるので、難しいことでなくてよいと思うが、時の人ではなく、次の浜田市の課題解決や、こういう課題について皆で考えようというところにつながる内容がよいと思う。難しい内容でなくてよい。

私は先ほど澁谷委員が言われた、県立大学生、若者の未来もあるし、若者の意見を聞いて議会としてこうしていきたい、ということを感じられるのではないかと思うので。

三浦委員長

ちなみに学生の、具体的にこういう活動をしている方とか思い浮

	かぶ方はいるか。
村武委員	コロナ禍で活動が進んでないので、ぱっと出てこないが。私が以前かかわらせてもらった、はまだを明るく照らし隊、この前も10月26日にはまだ灯があった。そこの4年生の学生や会長とか。あとはS C O Tの活動をされている方など。
佐々木委員	三浦選手は世界的な舞台に突然出てきて、旬の人だと思う。何十年に1人の逸材である。浜田の広報に取り上げることに意義があると思う。逸材を家族も含めて取材するのがよい。
三浦委員長	指導者の先生も市内にいる。選手と周りの方を取材するのもよいと思う。
笹田委員	市民対談ということだったので母親が入ったほうがよいと思う。子育ての関係で意見をもらえるし、どう育てたかもわかる。それで提案させてもらった。
野藤委員	関連してだが、2月1日発行とのことで、企画をある程度組んで、m i n i のほうで事前告知してから発行したらどうか。
三浦委員長	それも一つのアイデアだと思う。
芦谷委員	代案はないが、市の広報や一般の新聞の二番煎じではどうかと思う。議会として発信するスタンスも必要。議会として少し厳しめのこともあってよいと思う。
澁谷委員	最後は正副委員長が決めるしかない。今回にせずとも次回に回してもよい。多数決で決めてもどうかと思う。
笹田委員	今出た意見は次にも回せる。
三浦委員長	今皆から意見をいただいたので、我々のほうでその意見を踏まえて、次回のご提案は次回の委員会でさせていただきたい。一旦お預かりさせていただきたい。いずれにせよ議会としての切り口がどこにあるのかを持って、でない議会だよりでそれをやる意味というか、市報とは違う視点がこちらには大事だと思うので、そのところは意識しながら人選を検討したい。

2. 市民一日議会について

(1) ルール確認

三浦委員長	私から説明する。 (以下、資料をもとに説明) 補足があれば今後加筆する。一旦見てご意見をいただきたい。
-------	---

- 小寺書記 もう1点確認だが、基本的に公開するという事で報道にも案内するしY o u T u b eでも公開するイメージなのだが、傍聴に来られた方の撮影を許可するかどうかを考えていただきたい。家族の方が撮影することが許可は必要かとは思いますが、みだりに公開されることは注意が必要なのかと思う。傍聴者の撮影についてまた考えていただけたら。
- 三浦委員長 小寺書記から補足があった。このルール全般についてご意見をいただきたい。
- 川上委員 基本的に市議会は公開オーケーなので、傍聴席からの撮影とその公開については拒否できない。拒否しないほうがよい。またそれを公開するのは問題ない。市議会として全部公開許可でよいと思う。
- 笹田委員 「退場させる場合」という表現が上から目線なので「退場していただく場合がある」の表現がよい。あと最後に、何々まで参加できないと、期日を決めると書いてあるが。
- 小寺書記 犬山市では改選期までという書き方がされていた。浜田市議会の場合だと来年7月にやった場合10月に改選となり、割とすぐ解かれてしまう印象があったのでどうかと。ここも皆と相談したい。
- 野藤委員 原則公開ということは理解するが、例えば自分で撮影したものを恣意的な作業をして公開をされた場合のことが気になるのだが。あまり細かくするとまずいか。
- 三浦委員長
野藤委員 撮影された方が。
例えば共同作業として撮影して恣意的に組み替えて公開。善意で取ればよいのだろうが、恣意的な編集による公開は避けてもらうような文言が必要なのかとも思う。家族や関係者に交じってそういうことをされる可能性もなきにしもあらずで。そういうことを一つ一つ取り上げてルールをつくるのもどうかとは思いますが、こちらがコントロールできる文言を一つずつ上げるのではなく。
- 三浦委員長 この議場での注意事項、基本的には市政に対してとか、議員に伝えたいことを発言いただくもので、事前に内容については公の場で発言することなので、エントリーする市民にも発言にはご注意いただくのが前提である。原則公開を前提に来ていただくことになると思う。
- 野藤委員 公開だけど主催者の判断である程度はストップできる余地も必要では。発言でなくとも後日Y o u T u b eで公開される場合など。

- 澁谷委員 そういうのも、しようとする人は個人で撮影せずとも浜田市が公開しているY o u T u b eの動画を加工することもできるのでは。どんどん拡散されてとめようがない時代になってきている。それを言葉として入れていたほうがよいということか。
- 野藤委員 ある程度、抑止力として何かあったほうがよいのかと思った。発言自体を加工することも可能だし。
- 澁谷委員 そこまで考えたら公開しないほうがよい。
- 川上委員 あまり気にしなくてもよい。原則公開なのだから公開でよいではないか。
- 野藤委員 だんだんとイタチごっこではないが、そういうことも考えなくてはならない世の中になってきた。
- 三浦委員長
佐々木委員 我々は公開されているものなので。
- 我々は公人だから好きにされても仕方がないが、今回は一般市民なのでそれが無造作にされるとなると参加者がいなくなる。ある程度のルールはつくっておかないと。相手は市民なので。
- 三浦委員長 できるだけ参加していただけるルールづくりにも配慮する必要はあるのかと思う。例えばワークショップの風景を撮影して流すことも一緒だと思う。調べて、どういう形で情報公開するのがよいか、一度預からせていただき、宿題を持ち帰らせていただきたい。
- 退場させられた市民の解除時期については、犬山市を参考に入れさせてもらっただけなので、削除してもよいか。
- (「はい」という声あり)
- 野藤委員 主催者が期間を定めるとしてもよいのでは。
- 佐々木委員 その時にまた考えてもよい。
- 笹田委員 気軽に参加してもらうことが先なので。これを見たら普通の人は参加しようと思わない。言いたい人は来るけど。
- 三浦委員長 そこは削除、表現はもう少しやわらかいものを考えたい。

(2) 全員協議会提出資料

- 三浦委員長 小寺書記から説明をお願いします。
- 小寺書記 (以下、資料をもとに説明)
- 三浦委員長 時期的には令和3年7月くらいをめどに。土日となっているが、日曜日のほうが集客がよいという意見もある。絞って出してもよいのかなと思う。どのくらいバッファーを持たせるか。

野藤委員 7月というとオリンピックなどの大きな行事がぶつからない土日がよいのでは。

小寺書記 それを避けるなら前半のあたりかと。

野藤委員 全国的な行事を避けていくとおのずと決まってくるのでは。

澁谷委員 オリンピックの開会は決まったのか。

小寺書記 7月23日。

川上委員 だから前半の第1、第2日曜くらいに設定するとよいと思う。

小寺書記 6月定例会議がだいたい7月頭には終わるかと思う。

三浦委員長 そうなると4日や11日。ちなみに委員の皆は4日や11日はどうか。

野藤委員 市民一斉清掃がああたりにないか。

川上委員 だいたい6月ではないか。

芦谷委員 オリンピックも市民一斉清掃も、開会式とか、朝早い時間帯だから、あまりそこまで考えると進められない。

野藤委員 主だったものが浮かんだので。

三浦委員長 7月の下旬からオリンピックが始まることも踏まえ、初旬の4日か11日でどうか。

小寺書記 議会が終わって4日だとすぐかなと。

笹田委員 18日は。

三浦委員長 連休になる。7月11日、いろいろ日程を加味してここでやると。皆にもあけていただくお願いをしないといけないので、7月11日午後1時から4時で。

小寺書記 一応11日に議長の予定がないかどうか確認する。

三浦委員長 議長団の日程を再度確認いただいてから。

佐々木委員 議長会の役が回ってくるから。それがなければ。

小寺書記 確認する。

三浦委員長 一応全員協議会で、こういうことをやるというのはこの資料を使って皆にアナウンスしたい。

村武委員 発言者のところだが、浜田市内に在住、在学、在勤とあるが、年齢的にはどうなるか。小学生などもよいか。

三浦委員長 年齢制限について、皆はどう思われるか。

村武委員 私は無制限でよいと思う。

野藤委員 よく議場に見学に来る小学生は5年生くらいか。低学年では難しいのでは。

笹田委員 年齢制限をつくるなら、よそのこども議会を参考につくればよい

- 川上委員 今の子どもはおませなので、年齢制限なしでやってよいと思う。意外とよい意見が出るかもしれない。
- 澁谷委員 一度やってみないとわからない。
- 佐々木委員 問題は1年生だろうが大人だろうが、出た意見を議会がどう対処するかである。子どもの意見は答えやすいのでそれほど心配は要らないと思う。ただ、扱いをしっかりとる。
- 三浦委員長 意見の扱いは気をつける。
- 村武委員 子どももオーケーとなれば、そこに保護者の承諾が必要なのか検討したほうがよい。勝手に子どもが申し込む、ということは多分ないとは思いますが。
- 澁谷委員 申し込みがないことのほうが心配である。
- 川上委員 まずやってみよう。
- 笹田委員 もし抽選で当たった場合に、親に確認すればよいのでは。
- 野藤委員 抽選なのか。
- 三浦委員長 人数が枠内でおさまらない場合は抽選となる。抽選になるくらい応募をお願いしたい。
- 西川副委員長 抽選方法は。
- 三浦委員長 ここには記載していない。1人1件しかエントリーできない。
- 野藤委員 選考のようにしたほうがよいのでは。同じような内容のものでもこれが深いと思えばそちらを。
- 三浦委員長 市民の公平性を考えると、こちら側で意見を取捨選択することはできないのではないかと思う。
- 笹田委員 ドラフトみたいにするのか。
- 三浦委員長 考えないといけない。
- 村武委員 高齢者だけに固まることもあると思うが、それはそれでよいか。
- 三浦委員長 そこは仕方ない。まずやってみよう。
- 澁谷委員 聞いたものを、執行権もないのに聞くだけなのか。
- 三浦委員長 伺ったものは議会として。地域井戸端会で聞きに行っているスタイルをこういう形にするということなので、取扱いについてはルールが決まっているわけではなく、個々の議員活動に生かすとか。委員会で扱うのか、全員協議会で皆で話し合うか、都度判断することになるのでは。
- 佐々木委員 出た質問をどう扱うか、犬山のY o u T u b eを見たのだが、全

- 部全員協議会を開いて、そこでどうするか対応されていた。
- 西川副委員長 資料にある。実施概要の中に発言取扱いというのがあって。
三浦委員長 実施概要の一番下。
佐々木委員 議会報告会と同じような扱いだと言われたが、全員協議会を開いて対応するとなると少し違うのでは。
- 三浦委員長 誤解を与えた。地域井戸端会で出た意見は集約して全議員に共有し、周知している。そういう意味では、その後各常任委員会にもお戻して各委員会でどう扱うかを都度協議している。全員協議会で改めて取り扱うという意味なら、こちらのほうが重い。もちろん開催して終わりではない。議会として、委員会なのか個々なのかは全員協議会でどうするかをきちんと決める。
- 澁谷委員 地域井戸端会で聞くより発言の対応は重い。
佐々木委員 犬山の視察に行ったわけではないので理解できてないが、YouTubeで見ると全員協議会で、所管委員会が後処理をするのではなく、詳しい議員が挙手して個人的に対応したり、議長団が対応したり、それぞれ、非常に皆積極的に手を上げているので、そういうイメージを持っていた。今後考えないといけないし、皆が理解してやらないといけない。今後の大きな課題になるのではないか。
- 三浦委員長 正副議長に相談するべきか、議会運営委員会に相談するべきか。
佐々木委員 一度は議長に相談したほうがよいように思う。
三浦委員長 では全員協議会の前に一度議長のお話を伺って。
佐々木委員 事前に、議事録は見るが大事なところは説明したほうがよいかもしれない。
- 小寺書記 了解した。
笹田委員 マックス何人までと決まっているか。
小寺書記 一応10人だが、もう少し増やしてもよいかもしれない。1時間で1人10分と思えば、5、6人くらいというイメージだが。
- 笹田委員 人数が決まっているなら、全員協議会でこれについては誰がやるかとか協議してもらおう方法もある。そこまで考えておかないと、急に全員協議会で取扱いをどうしようかといっても、委員はわかるけど他の人は戸惑うので、ここである程度どうしたいかを決めてから協議にもっていかないと、よい形にはならないように思う。意見を返す方法を、会議として成り立つようにしないと意味がないかと。私は聞いてない、知らないということがないようにしないと。

佐々木委員	基本的にQRコードで様子を見てもらうのがまず大事だと思う。
笹田委員	全員協議会で流すか。
佐々木委員	それもよい。見てない人はイメージが湧かないと思う。これを必ず見てもらうかその場で見てもらうか。
笹田委員	そこまで見せないと意味がない。
小寺書記	取扱い自体の協議が20分くらいだと思う。議場での発言は30～40分。
佐々木委員	それを抜粋したようなものがないか。
三浦委員長	当日、個々に見てもらおうと動画に集中してしまうので、こちらでイメージスライドなどをつくって説明する。全体の様子はこのような感じ、その後全員協議会ではこういう協議がされていると。犬山市はこのようにやっておられる、とにかく全員協議会で取り扱って、議論が市民一日議会だけで終わらないように協議してやっていくというところまでこの中で考えているということをお伝えできるような説明を全員協議会でさせてもらう。こちらで考える。小寺書記には一緒に考えていただく。

3. その他の広報広聴について

(1) SNSでの発信

三浦委員長	小寺書記から説明をお願いします。
小寺書記	(以下、資料をもとに説明)
三浦委員長	副委員長から何かあるか。
西川副委員長	どれをするにしても頻度のある程度発信していかないとすぐ飽きられる。やるなら覚悟を持ってやらないといけない。いろいろあるが、一つに統合すると連動して投稿できる。頻度が大事だと思う。
三浦委員長	皆いかがか、議会としてSNSを活用した発信。
野藤委員	主な発信者は議長になるのか。 (「いやそんなことは」という声あり)
澁谷委員	焼津市議会のFacebookを見ても何もおもしろくない。公平性を考えて議員が写らないようにしている。内容も当たりさわがない。アクティブにすると個人の活動や委員会の活動になるし、どこを基軸に持ってやるか。何を目的にどういう頻度でというのを明確にしてやらないと意味がない。
野藤委員	難しい。おもしろくしようと思えば偏りが出るし、事務局が発信

- すれば一番よいのかもしれないが。ただ、広報機能と広聴機能の両方があるので、SNSを通して意見が入るかもしれないので、取り組むのはよいと思う。いかにバランスを取るか。
- 笹田委員 おもしろい、おもしろくないは個人の見解なので、議会として何を発信するかだと思う。続けていくと、例えばコロナ患者が出た時に議会からも発信できる。災害時も発信できる。支援物資の情報なども知らせられると考えると、そういうことも想定して考えていくべきだと思う。興味を持っている人は見てくれても一般の人は見てくれない。議会としてルールを決めてやればよいのかと思う。
- 野藤委員 表の中のFacebookの津和野町議会に米印がついているのだがこれはどういう意味か。
- 小寺書記 町議会だが近隣で実施している、という意味で掲載している。
- 澁谷委員 先般、議長会の研修において印象に残っているのが、市民に対して報告が足りないという言葉である。知らしめることに徹すればパターンはできる。
- 笹田委員 全員協議会で発表されたことで市民が知らないことがいっぱいある。丁寧にやってみる。LINEとTwitterとFacebookは連動しているので1件投稿すれば同時に更新できる。おもしろい、おもしろくないは別として、情報発信をやってみる価値はある。
- 西川副委員長 各委員会に担当者を決めて、全員協議会なら事務局になるかもしれないが、何かあれば報告を入れるようにすれば結構更新できるのでは。
- 澁谷委員 ここのメンバーでやればよい。
- 笹田委員 各常任委員会から出ているし。ただ、勝手にはなかなかできないので、例えばこういうことをしたいと委員長に確認して、議会としてやることであって個人的な見解ではないので。
- 野藤委員 何かフォーマットのようにして、何があって誰が今日の出来事とか、ある程度発信する項目を決めておけばよいのでは。そういうものだろう。
- 澁谷委員 気づきや思いがないと、5W1Hを報告するだけでは子どもの壁新聞レベルになる。折衷が難しい。
- 三浦委員長 ちなみに、首相官邸のTwitterは日々の総理に関する情報や内閣の重要政策についてなどの情報ということで、総理が何をしたとか、総務省からこういうことが発表された、官房長官の記者会

見の動画など。淡々と情報発信はされている。拾いたい人が拾いたい時に見られる状況になっているかという意味での情報発信の必要性というのはあると思うので。何を発信するか。

笹田委員

例えば写真を撮れといったらどの写真にするかでまたもめる。資料を写真で出してもよいのではないかと思う。そうすれば確実に市民が読める。市から出てきたものをそのまま情報提供して、広報としてやるのだという位置づけで。人が何をしているかではなく議会の動き。最初はそれでよいと思う。でないと続かない。

西川副委員長

写真で見る人が結構多いので、逆に写真に徹して出すみたいなものでもよいかと逆に思っている。

三浦委員長

情報を正確にきちんと伝えることも大事だと思う。興味関心を持ってもらうためにいろいろなやり方を工夫するのももちろんだが、どういう議論がされたのかを発信するという意味では正確に、そこに出されたものがホームページにも掲載されているが、あれを1個1個探すのも大変なので。例えば今日は全員協議会でこういう資料が出たというだけでも、やるのとやらないのとでは違う。議会としてやるからには個人の思いが入ってしまうと、それは24人それぞれで違うので、表現を一つ一つ確認していくのはなかなか難しいと個人的に思う。

笹田委員

情報を提供すると市民が知ることになって、広聴機能もある。誰が返信するかという問題も発生する。情報提供をしたからには質問が返ってくると思う。市がやる施策については。それも考えておかないと。

小寺書記

コメントへの対応部分で、Facebookなどを見ていると発言にはご返信しませんと頭に書かれていて、個別の意見は議会事務局へと案内されている場合もある。そういう対応もあるかとは思っている。そういうことが書いてないものもある。

三浦委員長

ちなみに、今日何々委員会でこういう資料が配布されたと発信する時に、事務局的にはどのくらいご協力いただけるものか。基本的には議員が動くのだが、資料提供していくことなどは事務局にもご協力いただく部分が出てくるのかなと思ったときに、どれくらい。

近重係長

資料のデータは市のホームページの日程表に出ているものにURLがついているので、あれは公開しているデータなので、そのリンクを貼れば直でつながる形にはなるので、慣れたらすぐできると考

- えているのだが。
- 三浦委員長 例えは今日の議会広報広聴委員会ではこういった議論がされた、配布資料がURLを添えて。それがおもしろいかおもしろくないかはまた別の話なのだが、そういうことも定型文でやっていくか。
- 笹田委員 何でも事務局任せにはしてはいけない。SNSを使うなら編集方法も我々で考えていかないと。返信が返ってくるメリットは災害時に、何か助けてくれる、反応が返ってくるかもしれないという気持ちであって、反応がない人には返信など来ない。そういう使い方を仮定するのなら何かしら議会で考えないといけない。負担にはなるが、それくらいのことは議会全体として考えないといけない。
- 三浦委員長 コメントには誰が責任を持って返すのかということになる。事務局にそれをお願いしてよいのか。
- 笹田委員 市が執行部に聞いて、聞いたことを返信するとか。
- 三浦委員長 それは24人の誰がやるのか。所管外のコメントが来たときに、自分で返してよいのかとか。事務局にお任せしてよいのかとなると、協力を求めないといけない場面が出てくると思う。
- 笹田委員 返信を返しているところもあるのか。
- 小寺書記 ある。
- 野藤委員 内容によってすぐ返さないといけないものとそうでないものがある。その辺もルール決めが必要。
- 澁谷委員 議会は聞いても対応する能力がない。その辺の線引きが必要。
- 三浦委員長 一方的な情報発信だけで、受信はしないというスタンスでよいのかどうか。発信の仕方など整理する必要がある。
- 笹田委員 アンケートを見ると、市民からの信頼が足りない。どんどんこちらから仕掛けていって市民の信頼を勝ち取らなければ、議会と市民との連携が構築されない。言われたからには努力するべき。それを皆に説明して、正副議長を巻き込んでやるべきである。
- 野藤委員 緊急なもの以外は早急に対応しますとしたほうがよいのでは。内容に緊急性があればすぐ対応して、それ以外は時間をいただくとしてもよいのでは。
- 笹田委員 やっているところの話を聞いたほうがよい。
- 三浦委員長 様々にいただいたご意見はこちらで整理して、再度提案したい。
- 佐々木委員 確認なのだが、SNSを使っただけの発信はこれまでもテーマに上げて議論したがなかなか難しいと。基本的にホームページは情報を取

りに行けば見られるが、SNSは取りに行かなくても情報発信ができるというメリットをどうするかという議論である。いかに効果的に市民に提供するかなので。この話はここで置いておこうか。

三浦委員長

またご相談したい。

(2) 地域協議会との意見交換会

三浦委員長

小寺書記からご説明をお願いします。

小寺書記

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

これについても皆のご意見を伺ってまとめたい。

まずテーマの設定について。議会で設定して協議会へお願いするのか、議会と意見交換の場を持ちたいので、議会に伝えたいテーマを地域協議会に投げるのか、あるいはフリーでやるのか。皆どう思われるか議論いただきたい。

川上委員

地域協議会で上げていただきたい問題点があると思う。各地域協議会で、議員と話したいテーマを調査した上でやったほうがよい。

佐々木委員

地域協議会の中で、その地域で問題になっていることを聞かせてもらうことも必要だが、議会として判断に困っていることを聞くことがあってもよい。無理やりテーマを設定するのはどうかと思う。今聞いておきたいテーマが議会側にあればそれを、なければ地域協議会から提案をいただく。

野藤委員

地域井戸端会のような雰囲気であればと希望する。生々しい会議になりそうな気がするが。

川上委員

金城にも旭にも弥栄にも問題がある。聞いて解決策を執行部に振るという位置づけになるのかな。今ならクマの出没とか。

近重係長

要望だけ、あれやってくれというご意見だけにならないような配慮は必要なのかなと。地域井戸端会のようにとなると、フリーの仕方も。

三浦委員長

協議会との意見交換なので、ワークショップ形式にして個々の意見を聞くと協議会に行く意味合いが薄れる可能性がある。地域協議会の中で今テーマにされていることとかを聞いたらよいのでは、というのがそもそもこの提案なので。

野藤委員

一つか二つくらいの課題を出してもらって、あまり長い時間をかけずにやるのがよい。

笹田委員

地域協議会に決めてもらったらよい。

- 三浦委員長 今の話だと、地域協議会側に地域内で課題として扱われている問題についてご意見を伺いたいとご相談するのがよい、という意見である。
- 川上委員 地域協議会のやり方として、各自治区の執行部がテーマを決めて地域協議会は年間4、5回あるので、テーマを決めた時にそれを我々議員が聞くのもよいことである。プラス問題点を出していただいて、二つを一つにまとめる方向がよいかと思う。残り時間でやる。普段三つくらいのテーマを二つにしてもらい、話ができる時間をつくってもらおう。それを地域の執行部にお願いすれば十分できると思う。
- 西川副委員長 時間が結構、1時間半や2時間あって、三隅は4時間くらいやるときがある。テーマをきっちり入れ込んでもらえれば。重いテーマがないときにでも入れ込んでもらえばよい。
- 川上委員 報告事項がある時にプラスで入れてもらえば意外と早く進む。そういう形でお願いしたい。
- 小寺書記 報告事項というのは、報告事項に関連した内容でということではなく、議題の一つに議会との意見交換会ということか。
- 川上委員 地域協議会は報告事項と協議事項として市長部局から上がってくるものがあるが、地域の報告事項だけで動く場合もある。それはテーマとして軽いので、それプラス、自治区の執行部が大丈夫だというテーマを取り上げるか。だいたい年度初めは重くないので。
- 近重係長 報告事項がメインのときに入れてもらうということではどうか。重い協議事項がないときなどに。
- 川上委員 年間4、5回分の予算しかないなので、別途開催することは難しい。
- 三浦委員長 実施方法でご指南をいただいた。①から⑤いずれでもよいのでご意見をいただきたい。どういう形で、議員が全員で行くのか分割で行ったほうがよいか。
- 澁谷委員 2、3班に分けて行く。
- 川上委員 地域協議会委員は15人しかいないので、その3分の1。
- 三浦委員長 5か所なので、5グループに分けるとすると4、5名。
- 川上委員 全員でやるか議会広報広聴委員会のメンバーでやるのか。それによって人数も違う。
- 三浦委員長 この委員会の活動としてというのも一つ。
- 野藤委員 正副議長と相談されたらどうか。
- 三浦委員長 もちろん相談はするが、この委員会で一度協議した内容を持って

- 野藤委員 いったほうがよいと思う。
- 野藤委員 この委員会でやるのは重すぎる気がする。人数が多いということなら各常任委員会で担当を数名出してもらおうとか。相手側の地域協議会が15名であり人数が少ないのもあれかなと思う。
- 佐々木委員 これは年2回の議会報告会の一環ではなく、別物か。
- 三浦委員長 はい。
- 佐々木委員 5月と10月それぞれやると。
- 三浦委員長 その1回を、今年は議会報告会ができてないので市民一日議会にすりかえることも踏まえて今検討しながら。それは来年7月になったが。前も、確定はしていないが、年2回の議会報告会の1回を市民スピーチに変えてもよいという話が出ていた。
- 佐々木委員 地域協議会を相手にする案はいつから出たのか。
- 三浦委員長 これからの広聴機能をどう高めていくかという中で提案をしたものである。そういう場を設けるのも別途あってよいのではというご提案に対して、それも一つの案かなと。やるならどういう形がよいかという議論をしている。
- 笹田委員 僕もこれは全体でやったほうがよいと思う。地域協議会も5自治区分あるので、全議員で取り組んで情報共有するべきと思う。
- 村武委員 私も全議員で取り組むべきと考える。
- 芦谷委員 各委員会で意見交換の場を、というのがある。委員会は委員会、餅は餅屋なので意見交換の場をしっかりとやらせてもらって、なお広報でやるとすれば、議会広報広聴委員会の切り口で、他の委員会が触れない部分をやればよい。これはよいことなのでやるはやるが、切り口をしっかりと決めるべきだと思う。
- 小川委員 5会場なので、地域井戸端会は10会場で、2か所、班編成すればよいと思う。
- 澁谷委員 議会広報広聴委員会なのでこの委員会でまずスタートを切ってやるほうがよい。やってみて問題があるなら全体に広げればよい。最初から全議員に投げかけるパターンが増えるのもどうかという気がする。
- 野藤委員 これは継続してされるのではなく、単発なのか。であれば委員会で取り組んでもよい。
- 三浦委員長 基本的には、こういう機会が必要ではないかという投げかけなので、単発のつもりはないのだが。

- 野藤委員 基本的には継続というのであれば、全体で取り組んだほうがよい気がする。単発ならちょっとやってみるのもよいが。
- 三浦委員長 地域協議会の方が議員と意見を交わす場が求められるかどうか、まず議会広報広聴委員会で出向いて伺うというのにはありだが。
- 西川副委員長 自治区制度廃止によって地域協議会の方は地域の意見が上がりにくくなることを懸念されているので、議会から出向いて話を聞くことに意味があると思っている。
- 三浦委員長 これも宿題になるが、各常任委員会に普段の活動で市民との対話の場を設けるようお願いしている中で、重複部分がないようにすみ分けを整理して、もう少し考えるか。いただいたご意見を参考にしながら。ここで結論が出る感じではないので。それでよいか。
- 地域協議会の方々と今、議会は接点がないので、これも正副議長に相談に伺いながら、また皆に整理し直したものを再度次回ご提案したい。
- 笹田委員 お願いなのだが、自治区制度がなくなって地域協議会との連携をこちらから求めていかないといけないと思っている。向こうがだめとかではなくて。地域協議会と議会は今後密にしていくという覚悟がないと、こちらから仕掛けていかないと、自治区制度が変わる、向こうも不安だとか、そういう思いを払拭するためには議会が全体で一つなのだということを見せていかないといけないと思うので、それを加味して考えていただきたい。地域協議会は重い組織だと今回の条例でもうたわれている。
- 三浦委員長 貴重な意見に感謝する。整理して皆に相談させていただきたい。

4. その他

- 三浦委員長 小寺書記からあるか。
- 小寺書記 3点ほど報告したい。1点目、議会だよりの表記について。今までいろいろ調べてきた中で、議会だよりに使用する表記の目安になるものを随時作成している。皆に原稿をつくっていただく際にこれを見ながらやっていただきたい。もちろん個人一般質問の作成時にも全議員に参考にしていただきたい。全体で見ただけのように議会図書室にマニュアルを置くようにする。随時ご確認いただきたい。どういう表記か載っていないものは事務局に問い合わせさせていただき、その内容も反映したい。ご協力をお願いします。

三浦委員長
小寺書記

全議員にはいつでもやってアナウンスするのか。

メールで、ここに入れているのでつくる時に見てくださいと。この委員会で皆に内容をご確認いただいたので、それを踏まえた上で送信できればと思う。

2点目、読者アンケートのQRコードなのだが、回収ボックスにつけていたQRコードは、事務局の認識違いで、同じQRコードで内容が変わってもいけると思っていたのだが、それには質問のつくり方が不十分な部分があったので、今回新しくQRコードをつくり直した。それにしておけば次号以降からは同じQRコードでできると考えている。皆には、月頭に用紙の回収で定期的にチェックいただくが、古いQRコードの上から新しいQRコードを貼って、古いコードが見えないようにしていただきたい。願います。

最後は次回委員会の日程について。11月16日に全員協議会があるので、そこで市民一日議会の話をするのだが、問題がなければ12月4日の個人一般質問最終日でいかがだろうか。

三浦委員長

皆よろしいか。

(「はい」という声あり)

西川副委員長
小寺書記

対談の相手は。

それまでに決まっていれば問題ない。

三浦委員長

大丈夫だと思う。では12月4日に。

小寺書記

第4委員会室で願います。事務局からは以上である。

三浦委員長

他にあるか。

芦谷委員

表記の出どころはどこか。

小寺書記

記者ハンドブックである。

野藤委員

皆に見てください、というように知らせるのか。

小寺書記

はい。

三浦委員長

他にあるか。

(「なし」という声あり)

では、以上で議会広報広聴委員会を終了する。

[11時 55分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀